

問題意識

- 「標準的なバス情報フォーマット」(GTFS-JP)は、「経路検索に資する交通に関する情報の受け渡しを効率的に行う」ことを目的の一つとして制定された。
- GTFS-JPにより、経路検索事業者への情報掲載が進んだが、最近では、GTFS-JPに基づいたデータであっても、事業者から掲載が拒否される事例が発生。
- この理由は、GTFS-JPのフォーマットそのものではなく、フォーマットに基づいたデータを作成する際の記載方法にあると考えられる。



対応方針 (案)

- 「標準的なバス情報フォーマット」(GTFS-JP) そのものではなく、**「静的バス情報フォーマット (GTFS-JP) 仕様書」など(※)を見直して、データ作成時の“記載方法”を変更**することで、各経路検索事業者の掲載基準を満たすようにする。

※「静的バス情報フォーマット(GTFS-JP)仕様書(第2版)」、「動的バス情報フォーマット(GTFSリアルタイム)ガイドライン(初版)」、「バス情報配信方法ガイドライン」「『標準的なバス情報フォーマット』ダイジェスト」、「はじめよう!『標準的なバス情報フォーマット』」
「データ整備・活用事例」、「『標準的なバス情報フォーマット』データ整備の手引き」、「経路検索事業者等へのデータ提供の手引き」